

高速道路資産の長期保全及び更新のあり方に関する技術検討委員会

1. 設立趣旨（2012年11月7日 第1回委員会資料より）

高速道路3会社が管理する高速道路は、昭和38年7月16日に我が国最初の高速道路として名神高速道路・粟東～尼崎が開通して以降、順次整備を進め総延長8,716 km（平成24年3月31日現在）が供用している。利用台数は約700万台／日に達し、大型車の通行台数も約200万台／日となるなど、国民生活に欠かせない道路となっている。

また、高速道路3会社は、全国の産業や生活を支える大動脈として重要な役割を担う高速道路ネットワークの機能を将来にわたり維持し、構造物の安全性を確保する責任を負う使命を担っている。

しかしながら、供用後の経過年数が30年以上の区間が約3,200 kmとなり、橋梁・トンネル・土工などの高速道路資産の経年劣化が進むとともに、大型車交通量の増加や積雪寒冷地や海岸部を通過するなど厳しい環境条件下で構造物の老朽化や劣化が顕在化してきている。

以上のように、高速道路資産の補修を必要とする変状が増加しており、高速道路資産を永続的に健全な状態で保ち、安全・安心にご利用いただくため、長期保全や更新について技術的な検討が必要となっている。

更に、今後の更新などにかかる費用と償還の扱いについては、「高速道路のあり方検討有識者委員会」（座長 寺島実郎日本総合研究所理事長）の中間とりまとめ（平成23年12月）においても提言がなされているところであり、その前提となる長期保全や更新に関する技術的な検討は急務であると言える。

そこで、高速道路ネットワークを将来にわたって持続可能で的確な維持管理・更新を行うため、橋梁を始めとした高速道路資産の長期保全及び更新のあり方について予防保全の観点も考慮に入れた技術的見地より基本的な方策を検討する必要があることから、本委員会を設立するものである。

2. 委員名簿（敬称略）

（2014.1.21 現在）

委員長	藤野 陽三	東京大学大学院工学系研究科総合研究機構 特任教授
委員	太田 秀樹	中央大学研究開発機構 機構教授
委員	宮川 豊章	京都大学大学院工学研究科 教授
委員	西村 和夫	首都大学東京都市環境学部 教授
委員	長尾 哲	東日本高速道路（株） 管理事業本部長
委員	猪熊 康夫	中日本高速道路（株） 保全・サービス事業本部長
委員	牧浦 信一	西日本高速道路（株） 保全サービス事業本部長

3. これまでの検討経緯

- 第1回委員会 2012年11月7日
 - ・ 委員会設立趣旨
 - ・ 委員会検討内容とスケジュール
 - ・ 高速道路の現状と課題
 - ・ 構造物の変状と維持管理の現状
 - ・ 「長期保全及び更新の検討」の着目点と必要性

- 第2回委員会 2013年3月5日
 - ・ 委員会での検討の方向性
 - ・ 長期保全及び更新の必要性検討の流れ
 - ・ 対策の定義付け
 - ・ 検討の着目点の整理
 - ・ 変状分析と対策要件の策定
 - ・ 今後の検討の進め方
 - ・ 中間とりまとめに向けて

- 第3回委員会 2013年4月10日
 - ・ 変状分析結果と大規模更新・修繕の必要要件
 - ・ 点検のあり方及び第三者等被害防止対策検討WGの設置について

- 中間とりまとめ公表 2013年4月25日

- 第4回委員会 2014年1月22日（予定）
最終とりまとめ公表